

都市医師会長からの抱負

医師会長 2 期目の抱負

札幌市医師会

会長 こん 今 まさと 真人



令和 5 年 6 月 10 日に第 134 回札幌市医師会定時代議員会において新役員を選任、その後の臨時理事会で私が会長に選定され、2 期目の代表理事を務めることとなりました。

今年度の当会の活動方針は「レジリエントヘルスケア札幌 2023」です。この方針のもと、パンデミックによる医療逼迫を防ぐため、平時からサージキャパシティの確保、拡大と質的強化を推進し、有事に即応できる体制を重点課題としています。

昨年末のコロナ・インフル同時流行の懸念から、小児科休日当番医療機関の負担軽減を目的として実施した「ドライブスルー発熱外来」の経験と実績は、将来の災害時においても医療提供体制の一形態として十分に機能を果たし得ることを確認できました。

新型コロナや医師の働き方改革の影響などで救急医療体制が逼迫し、崩壊の危険性を感じる状況のなか、昨年 6 月に設置した「札幌市救急医療体制検討委員会」で新たな体制構築に向けて議論を重ね、今年度から新たな二次救急医療体制として「拠点病院・準拠点病院」体制を導入しました。さらに、救急隊による患者搬送時の患者情報の見える化システムの導入や出口問題に対応するための後方支援体制の整備なども検討しております。

また、胆振東部地震や新型コロナパンデミックの経験から、今年 4 月に「災害時医療体制検討小委員会」を立ち上げ、災害時に医療的支援を必要とする透析患者や在宅酸素療法患者などの要配慮者の「居住地ベース」での情報共有化に向けた検討を始めたところです。

今後も、救急・災害医療体制について継続的に議論を重ね、新たな体制が十分に機能しているか検証しながら運用してまいります。

その他にも、地域包括ケアシステムの構築、地域医療構想の整備、認知症医療対策、医療 DX、サイバーセキュリティ対策など、喫緊の課題が山積しており、これらの課題に全力で取り組んでまいります。

会員の皆様のご指導とご協力を心よりお願い申し上げます。

会長再任のご挨拶

石狩医師会

会長 もりかわ 森川 みつる 満



この度 6 月の会員総会・理事会にて、石狩医師会長に再任されました。副会長をはじめ、すべての役員と協力し、次の 2 年間で務めていきたいと思いません。

令和 3 年 8 月からの 1 期目を振り返ると、引き続き新型コロナウイルス感染症対策が中心の 2 年間でした。

就任当初は、高齢者への新型コロナワクチンの接種も終わり、残りは、冬のインフルエンザ流行時期までに、若年者へのワクチン接種を完了させることでした。ところが、若年者への 2 回の接種が終わりでも 3 回目、4 回目と追加接種が続く状況となりました。ただ、市内では、ほとんどの医療機関が、開始当初から住民接種に積極的に関わってくれたため、毎回スピード感を持って、接種を終わらすことができました。

また、令和 3 年、年末からのオミクロン株拡大では、多くの病院・施設がクラスターに直面しました。濃厚接触者で自宅待機とせざるを得ない者も増え、ギリギリの数の医療従事者で診療を行う日も続きました。市内でもクラスターが頻発しましたが、本院の看護師もクラスター発生医療機関へ進んで支援に入ってくれました。本院も人員的には厳しい状況ではありましたが、市内では、ほとんどの病院・診療所が、診療・検査医療機関となり、地域の医療スタッフ全員で新型コロナと戦っているという思いもあり、この厳しい状況も助け合って進むことができました。

さて、石狩医師会は会員数 63 名の中央ブロックでは一番小さな医師会です。会員が少なく、多くの都市医師会同様、マンパワー不足という課題に直面しています。ただ、昨年 9 月には、13 年ぶりに新しいクリニックが市内に開院しました。そして、当小児科クリニックも市内の新型コロナの診療検査や住民接種に積極的に関わってくれました。

今年 5 月 8 日、新型コロナはようやく 5 類へ移行しました。オミクロン株以降の新型コロナは、普段の風邪より症状の軽い患者が多く、それほど心配するものではなくなりましたが、これからも地域住民の医療を支えていくため、本会会員の皆様、そして、北海道医師会会員の皆様にも、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

北部檜山医師会からご挨拶

北部檜山医師会

会長 川岸 直樹



2021年4月から北部檜山医師会会長を拝命し、はや2年が過ぎました。この間、最大の懸案事項は新型コロナウイルス感染症でしたが、5類相当になったこともあり、当地域の感染症への緊張感は薄れつつあります。オミクロン株以降、アルファ株やデルタ株の頃のような重症肺炎になることは稀であるというのは実感しますが、当地域の入院患者の大多数は超高齢者ですので、今後も院内感染によるクラスターには十分気を付けたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、当地域では2020年初期から医師会学術講演会をweb形式のみで開催してきました。参加人数は減少したのですが、厳冬期に吹雪の中移動することも不要ですし、思い思いの格好で視聴できるので、一部の会員には好評です。僻地といわれるような地域では、学会への参加もままならないことから、せめて地域の医師会主催で学術講演会を開催し、最新医療を学ぶ機会を作るという趣旨があったのだらうと思います。しかし、ここ2年で実感したのは、当たり前ですがwebでも十分勉強できるということです。昨年1学会の専門医更新をしましたが、3分の2の単位はweb参加でした。今年3学会の専門医更新がありますが、ほとんどwebでの単位取得です。時代の変化を痛感しますが、なかなかリモートで働くことができない我々にとって、せめて学術部門はwebでお願いできれば幸いです。昨年度は当医師会主催の講演会を10回、医師会が共催しない勉強会を3回開催しました。全てweb開催でした。今年度も積極的にwebで開催し、当医師会の医療レベル向上の一助になればと考えています。

4年前厚労省が発表した「再編・統合病院」の中に当医師会の2病院も含まれており、今後議論が再燃するでしょう。医師不足・偏在・働き方改革など、書きたいことは多々あるのですが、紙面の都合上、今回はここまでといたします。

再選の抱負

小樽市医師会

会長 鈴木 敏夫



令和5年6月2日に開催された第156回小樽市医師会定時総会後の臨時理事会で会長に推挙され2期目となりました。第22代会長就任時の令和3年6月は、人口約11万人の小樽市でCOVID-19の第4波が直前の5月にあり319人/月の感染者でした。その後令和4年8月第7波では4,217人/月、11月第8波では4,739人/月と増加し、令和5年8月現在第9波の最中にあります。1期目就任直後の6月下旬から小樽市と協力し、市内でのワクチン集団接種を開始しました。阿久津光之前会長の時代から通算して、小樽市保健所とCOVID-19対策協議会を19回開催し、ワクチン接種協議会も9回開催しました。

本来、毎月の理事会後に花園町（繁華街）へ繰り出し諸先輩からの叱咤激励を受けていたはずなのですが、現在に至るまで再開されておりません。理事会もしばらくZoomにて開催していました。毎年1月に開催されていた新年交礼会も中断されました。少なくとも花園町のママ達からは、花街に最も貢献しなかった医師会長として今後も記憶されることと思います。

本年3月に68年間に渡り4,129名の卒業生を輩出した准看護師養成校であった小樽市医師会看護高等専修学校を閉校いたしました。私は、校長として入学式を一度も経験せず、1回の戴帽式および2回の卒業式にて挨拶をした最後の校長となりました。現在の医師会館も築50年を経過し経年劣化のための補修が増加しており、今後存続できるかどうかが大きな問題となっています。年間2千人の減少が続いている小樽市の人口は令和27年（2045年）には約6万人になると推定されています。年間出生数もすでに400人未満となり、医師会会員も高齢化と開業会員数減少が続いています。全医師会会員と優秀な理事および3名という少数精鋭の事務局の力を借りて今期を全うし次世代へ引き継ぐ所存です。

医師会長としての2年間、 そして次の2年間に向けて

空知南部医師会

会長 まきの ひろき
牧野 裕樹



令和3年春に空知南部医師会会長を拝命し、この春から2期目を継続することになりました。

私が会長に就任した令和3年春は新型コロナウイルス感染症の第四波といわれていた時期であり、空知南部の小さな町ではコロナはそれほど蔓延していない時期でした。そして、その後はコロナ対策に何ができるか、対応に追われた2年間となりました。

公立の基幹病院でのコロナ診療に協力が得られ、管内でも入院治療が可能となり、診療所開業医でも発熱患者に対応するよう、まずは自身の診療所で率先すべく発熱外来を開設、診療所における感染対策や患者対応を管内のクリニックにも周知し協力をいただけるよう依頼、その後の大きな波の第七波、第八波と戦うこととなりました。

道内では昨年の第八波が最大の波でしたが、医療機関や老人施設などではクラスターも発生、管内の医療機関だけでは対応しきれず、岩見沢をはじめとする他の医師会の皆様にも大変ご負担をおかけしたこともありました。この場を借りて当医師会員および近隣の医師会や医療機関の皆様にはご協力、ご支援に感謝を申し上げます。

5類感染症となる前には関係機関にアンケート調査を実施し、各医療機関の協力体制を確認、コロナ対応の勉強会を早急に開催し、管内のすべての内科、小児科でコロナ診療が実現できることとなりました。

コロナ対策以外では空知南部在宅医療サポート事業を構築し、バイタルリンクというネット上のシステムを用い、医療機関、調剤薬局、訪問看護ステーション、社会福祉協議会、介護事業所、地域包括支援センターなどの間で講演会などの広報活動、同意の得られた患者については患者の診療内容などの情報共有も可能となり、今後もさらに多くの関係機関にシステムに参加していただくよう進めてまいります。

また、特養配置医師の負担軽減目的でサポートシステムを構築し、配置医師は安心して道外の学会等への参加も可能となりました。ご協力いただいている由仁町立診療所にはシステムの構築と維持に多大な貢献をしていただいております。

管内ではこの2年間で高齢化率が40%を超える町もあり、今後さらに高齢化率は上昇することは必然と考えられ、医療ニーズは高まると思われまます。

新生児から高齢者まで地域住民が安心して地元に住み続けることができるよう、医師会として何ができるかこれからも模索していきたいと考えております。

再選に当たって

赤平市医師会

会長 わたべ こうしょう
渡部 公祥



6月の赤平市医師会総会にて会長に再任されました。2期目となります。

赤平市の人口は、現在約9,000人で、小さな町です。かつて炭鉱町として栄え、人口は約6万人だったとのこと。基幹産業であった炭鉱の相次ぐ閉山とともに人口減少が進み、そして医師会員も減少し現在22名（A会員2名、B会員20名）の小さな医師会です。また医師の高齢化はどんどん進んでいます。医師会長を含めて、役員のなり手不足にも困っている状況です。

赤平市医師会の継続事業として、赤平市の中学校生徒を対象とした「とっさの救急蘇生講習会及び実技指導」ならびに「薬物乱用防止教室」を実施しています。若いうちに、このような内容を教育することは、非常に大切なことと思います。この事業は、是非とも継続していきたいと思っております。

新型コロナウイルスの影響で、医師会活動も制限されておりましたが、今年は久しぶりに対面で医師会総会を開催できました。今後は、健康市民講座の開催も再開したいと思っております。また会員相互の研修と親睦の場の再開も必要でしょう。小さな医師会のため、以前のようにお互いの顔が見える、仲の良い医師会が理想と思います。

赤平市のみならず、空知地域全体が、人口減少・高齢化が進む中、病院連携・絆を深め、何とか地域医療を継続していく必要があります。行政や関係機関とも協力して、安心して暮らせる医療を提供できるように努力してまいります。

医師会長2期目を迎えて

旭川市医師会

会長 たきやま 滝山 よしゆき 義之



本年6月に行われた定時会員総会、理事会で会長に再任され2期目を務めることになりました。令和2年に始まった新型コロナウイルス感染症はこの2年でアルファ株、デルタ株オミクロン株と変異し軽症化はみられますが感染性は今なお高く、第9波には十分注意が必要です。5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症になり旭川市市内では以前からの旭川医科大学病院など5公的病院と14の民間病院が新型コロナ入院病棟を開設し、約120の医療機関が発熱外来として対応してくれています。ワクチン接種も医療機関で85%接種され、接種率も全道平均を上回り、会員の皆様のご協力、ご理解に感謝しています。

次期の大きな課題は、少子高齢化への対応です。旭川市の高齢化率は2023年で全道平均を上回り34%、2040年には43%になるといわれ、人口は約32万人から26万人台になります。65歳以上の高齢者は、2040年まで約12万人で大きく変わらず、さらなる高齢化医療の充実が望まれます。

少子化の影響は、看護師不足、介護職員の定員割れなどですすでに顕在化しています。

当医師会では付属の看護専門学校を併設していますが、この数年定員割れが続き、准看護師養成課程の定員80名を40名に、看護師養成課程も定時制、全日制の課程のうち、全日制を閉鎖することとしました。日本医師会では組織力の強化策として、研修医の卒後5年間の会費無料化を決め、入会を進めています。当会でも今年の総会で会費無料期間を5年とし、日本医師会、北海道医師会と準じる形にしました。市民に質の高い医療を提供するために、1次医療機関、2次、3次医療機関と連携が重要です。旭川市医師会では、ICTを使って、たいせつ安心 i 医療ネットを開設し、旭川赤十字病院などの5公的病院と1次医療機関との情報交流を図っています。今期は、会員との意見交換を深め、市民の健康増進を図っていききたいと思います。

医師会長に再選… 2期目に何が出来る？

宗谷医師会

会長 いさか 伊坂 まさゆき 雅行



この度、4月の医師会総会にて再任され、2期目を務めることとなりました。

1期目の2年間を振り返っても、医師会活動はほとんど行わず、理事会等も対面での開催は見合わせ書面開催にて対応してきました。

会長に就任するや新型コロナウイルス感染症対策に追われ、保健所との協議を重ね管内主要箇所が発熱外来の設置、自治体との協議からはコロナワクチン接種に対する取り組みを繰り返してまいりました。

自院でも発熱外来を立ち上げ、診療対応をしHER-SYS等への入力に四苦八苦し、オンライン診療を活用し、処方対応したり近隣の薬局にお願いして患者さん宅までお薬を届けていただいたり…あつという間の2年でした。

自治体と協議してきたコロナワクチン接種に関しては、集団接種や個別接種に対応可能な医療機関を探し、高齢者施設へ出向いての巡回接種などにも自ら参加し、看護師さんらと並んで予診票のチェックのみならず、ワクチン接種も行ってきました。

このコロナワクチン接種は、現在も持続して行われており、感染対策においては管内の医療機関をはじめ、医師会の先生方には感謝の言葉しかありません。

コロナ禍の中、とある医療機関でクラスターが生じ、外来は閉鎖対応するも入院患者を診る医師がいないとのことで、医師を派遣できないか？ コロナワクチン接種対応は行っているが、小児対応は困難なため、医師を派遣できないか？ など保健所を通じて医師会に連絡が入りました。対応可能なところは、自らが出向いて対応してきましたが、すべてを対応できたかという点では十分ではなかったと思います。

さて、2期目ですが…何が出来るのか？ 新型コロナウイルス感染症対策は継続しなければなりません。新たな取り組みを模索していかなければいけないなと思っていますが…はてさてどんな2年を過ごすのか？

6期目にむけて

根室市外三郡医師会

会長 ^{すぎき} 杉木 ^{ひろゆき} 博幸



不肖私が6期目の会長職を務めさせて頂くこととなりました。これまでご支えいただきました皆様に心から感謝を申し上げますとともに、今後も変わらぬご支援ご指導いただけますようお願いいたします。

私はこの10年間医師会長として何を行い何の効果をもたらしたのか、そして私が適任なのか、自問する日々ですが、さらに2年間の任期を与えられた重責を強く感じている次第です。

5期目の2年間は、ワクチン接種、医療提供体制の確保、クラスター対応など新型コロナ対策に会員皆様にご尽力いただいた期間でした。新しい感染症と向き合う非常時だからこそできる本音の議論を通じ、行政の皆様や医療機関相互の連携がさらに強固に構築されたと考えています。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行後には経済活動や自粛されていたイベントが再開され、地域ではコロナ前の賑わいを取り戻しつつあります。根室市では令和2年に北海道指定無形民俗文化財に認定された金刀比羅神社例大祭が4年ぶりに開催されました。祭りを楽しみにしていた多くの市民が繰り出し、街は活気と笑顔に充ち溢れました。帰省した人や観光客など大規模な人の流入や密な状況により、祭りはコロナ感染者が増加しています。ワクチン接種による重症化リスクの低減に加え、治療薬の流通により、人々が抱く感染への不安が希薄になっていることは事実であります。感染規模が大きくなならないこと、特に病院や施設での集団感染が発生しないことを祈るばかりです。

当医師会としましては事業計画に則り、学術講演会のさらなる開催や救急医療体制の確立の推進、さらには市民講座の開催、医療行政や学校保健に対する協力を行って参ります。そしてこれらの事業を通じ、医師会会員相互の連携や多職種との関係強化を図るべく、尽力してまいります。当地域の医療に携わる全ての皆様に心から敬意を表し、就任のご挨拶といたします。

北海道医師会ホームページ→医師の皆さまへ→会員専用メニュー→会員優待サービス



(ご利用にはユーザー名・パスワードによるログインが必要です。)

<http://www.hokkaido.med.or.jp/>

会員優待サービスのご案内

北海道医師会では、福利厚生事業の一環として会員限定の優待サービスを行っています。

割引価格で提供されていますので、ホームページをご覧ください。



ホテル予約

出張時の宿泊予約、
家族旅行の宿泊に…



ショッピング

ご自宅用・出産祝い
等のギフトに…



お引越し

国内・海外への
お引越し



8月よりスタート

イベント

ミュージカル・演奏会、
野球観戦、
ストレス発散に…

